

# 久宝寺事業センター

## 1 工場概要

- ▶ 住所 大阪府八尾市神武町2番35号
- ▶ 従業員数 約420名 (内 クボタ従業員:約270名)
- ▶ 敷地面積 38,921m<sup>2</sup>

## 2 事業概要

### ▶ 事業内容

久宝寺事業センター(以下事業所)の発足は、昭和48年。それまでクボタ創業の地である船出町工場(大阪市内)で生産していた計量機器、自動販売機事業の飛躍的拡大をはかるために、現在の大阪府八尾市へ移転したのが始まりです。昭和52年には粉碎機器部門が枚方製造所から移管され、以来、計量機器・自動販売機・粉碎機器の3つの事業が当工場の中核を形成してきました。

その後、昭和60年には電子機器の組立部門が発足。さらに昭和61年にはK-CADの開発が行われるなど、時代の脚光を浴びるハイテク分野への積極的な事業展開を推進しています。一方、事業が拡大した自動販売機部門は、平成元年に新しく建設された竜ヶ崎工場(茨城県)へ移管されました。

現在では、計量器や精米機などの電装機器事業及びその関連会社である(株)クボタ計装関西支社、そして、破碎機や選別機を中心としたリサイクル関連事業、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを担当するクボタメンブレン(株)が業務を行っています。

### ▶ 主要製品

(1)株式会社クボタ 電装機器事業部

計量機器関連事業

<標準はかり>



台はかり



防塵防水台はかり



耐圧防爆台はかり



重量指示計

<トラックスケール>



トラックスケール



ホイストスケール

# 久宝寺事業センター

## 計量システム関連事業

<LPG充填システム>



回転式ACAD型充填機

<粉粒体供給システム>

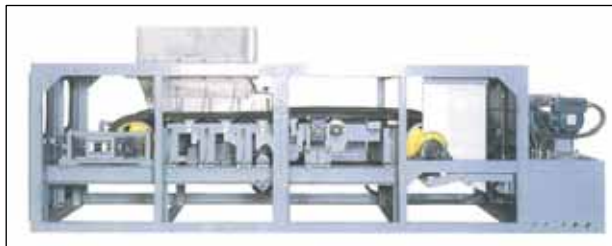


ベルトウェイングフィーダ



カセットウェイングフィーダ

<産業用はかり>



ポイドメータ



フロンバックスケール

## 制御システム事業



クリーン精米器



KG-X

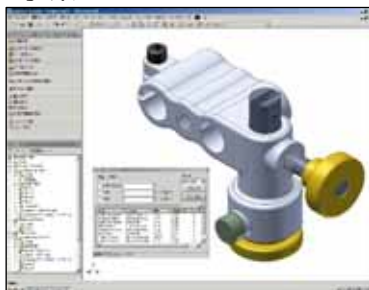


米伯楽



フルーツセレクト

## CAD事業



クボタ Design FACT  
(Autodesk Inventor  
(3次元CAD)対応)



クボタ K-CAD PEDRAS AC  
(AutoCAD対応)

## 券売機事業



TV3800シリーズ

## 久宝寺事業センター

### (2)リサイクル事業ユニット



マスチフ(一軸破碎機)



アイダル  
(豎形回転式破碎機)

### (3)クボタメンブレン株式会社



浸漬型膜分離装置  
液中膜



膜カートリッジ

## 3 工場変遷

- 昭和48年 9月22日 船出町工場より衡器・計量機器、自動販売機事業が移転。
- 昭和52年 粉碎機器部門が枚方製造所より移管。
- 昭和60年 電子部品組立部門の発足。
- 昭和61年 K - C A Dの開発開始。
- 平成元年 自動販売機部門が竜ヶ崎工場へ移管。
- 平成10年 4月 技術開発本部電子技術センターが転入。
- 平成12年 4月 電装機器事業部F A営業部およびその関連会社である(株)クボタ計装関西支社が転入。
- 平成13年 8月 リサイクルエンジニアリング部の製造課が当事業所の所在のまま、関連会社であるクボタリテックス(株)に移管。
- 平成13年10月 F A技術部がF Aエンジニアリング部に集約。
- 平成14年 2月 水環境エンジニアリング事業部門の関連会社であるクボタメンブレン(株)が転入。
- 平成14年 3月 技術開発本部電子技術センターが転出。
- 平成14年10月 事業所の名称を「久宝寺工場」から「久宝寺事業センター」に改称。
- 平成14年11月 リサイクルエンジニアリング事業部の技術部、工事管理部門および、環境エンジニアリング事業部の機材課が阪神事務所に転出。
- 平成15年10月 平成14年に阪神事務所に転出したリサイクルエンジニアリング技術第3部の一部が復帰。
- 平成16年10月 ロードセル課と電子機器課がF Aエンジニアリング部傘下に編入。また、開発課が新規に発足。
- 平成17年 4月 電装機器事業部におけるはかり事業の再編成が行われ、F A営業部とF Aエンジニアリング部がB U(ビジネスユニット)分割され、計量機器部と計量システム部が発足。
- 平成18年 5月 環境リサイクル事業部リサイクル技術部門が阪神事務所より転入・復帰。
- 平成19年 5月 環境リサイクル事業部門が再編され、クボタリテックス(株)が解散し、リサイクル事業ユニットとして再発足。

## 久宝寺事業センター

### 4 環境方針

#### ▶ ISO環境方針

久宝寺事業センターの環境方針は、「クボタグループ環境宣言(2006年6月1日改訂)」に示されている環境宣言及び行動指針に基づいて策定しています。

久宝寺事業センターでは、電子・電気をコア技術とした生活の基本となる計量器や精米機などの電装機器事業、破碎機や選別機を中心としたリサイクル関連事業、及び汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の3つの事業が開発・生産を行なっています。更に、計量器の販売・サービスに携わる(株)クボタ計装、液中膜の製造・サービスを担当するクボタメンブレン(株)、金型温調機・計量混合機等を製造・販売するクボタカラートロニック(株)の3つのクボタグループ会社がそれぞれの所属する事業部と連携しながら事業活動を行っています。

これらの事業組織と久宝寺事業センターのスタッフが助け合い、連携しあって、エネルギー消費の低減、廃棄物の発生抑制と分別による再資源化の推進、環境に配慮した製品・サービスの市場への提供などの環境保全活動を行うとともに、影響力を発揮できる事業全般に亘る項目について環境配慮・改善活動に取り組み、以下に示す「久宝寺事業センター 環境行動指針」に基づき、将来の地球環境の維持・改善に役立つよう、今後とも環境に配慮した企業活動を継続して着実に推進していきます。

#### [久宝寺事業センター 環境行動指針]

1. 環境関連法規制、八尾市をはじめとする関連自治体の条例等を遵守して、各々の事業がその事業実態に応じた環境改善への具体的な目的・目標を掲げ、その達成に向けて努力するとともに、その実施状況を定期的に評価・見直しを行って継続的改善を推進します。
2. 生産活動に伴って発生する環境に著しい影響を及ぼす項目については自主規制値を設定し環境保全に努めます。更に事業のあらゆる側面で、エネルギー効率やリサイクルのレベルアップに意を用い、全員の創意工夫により資源の有効利用と廃棄物の削減に向けた活動を行います。
3. 新製品開発やシステム製品の設計にあたっては、省資源化・省エネルギー化・有害物資の削減・リサイクル率向上・電波障害防止などをできるだけ織り込んだ製品アセスメントを実施し、製品環境負荷の低減に努めます。
4. 製造・サービス活動においては、原材料、部品に加えて、梱包材等の補助材料、設備などの購入にあたっては、より環境に配慮したものを採用するなど、環境保全性を高めるように努力します。また、取引先企業においても、環境保全活動への理解と協力を率先して推進します。

久宝寺事業センター及びクボタグループ会社のより多くの人々が、それぞれの事業にかかわる環境保全の重要性をよく考え、様々な環境保全活動に前向きに取り組むように、この方針をクボタの従業員、クボタグループ会社の従業員、久宝寺事業センター構内の協力会社の従業員に配布し、教育、啓発に活用します。又、この方針は、社会への責任を示すため、外部からの要求に応じて一般の人が入手可能なものとします。

改訂4 2007年 7月27日

制定 1999年 1月11日

株式会社 クボタ 久宝寺事業センター所長

#### ▶ ISO認証取得状況

1999年3月 ISO14001(1996年版)を取得

2006年3月 ISO14001(2004年版)で更新

## 久宝寺事業センター

## 5 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	最終達成目標	2006年度		
					目標	成果	自己評価
循環型社会の形成	産業廃棄物総排出量の削減	排出量原単位	2004	33% (2009年度)	20% (2004年度比)	28.9%	
	ゼロ・エミッション化	埋立比率 (処分残渣含む)	-	0.5%以下 (2010年度)	1.5%	1.4%	
地球温暖化防止	温室効果ガス削減	CO <sub>2</sub> 排出原単位	2004	15% (2009年度)	3% (2004年度比)	12.5%	
	CO <sub>2</sub> 総排出量削減	CO <sub>2</sub> 排出量	1990	46% (2009年度)	43% (1990年度比)	44.3%	
	物流のCO <sub>2</sub> 削減	CO <sub>2</sub> 排出原単位	2006	3% (2009年度)	---- (実績把握)	0.2241 t-CO <sub>2</sub> /千トンキロ	-
有害化学物質の削減	PRTR対象物質の削減	排出移動量原単位	2004	20% (2009年度)	14% (2004年度比)	14.8%	

自己評価の基準 : 目標超過達成 : 目標達成 : 目標一部達成 x : 目標未達成

## 環境 TOPICS

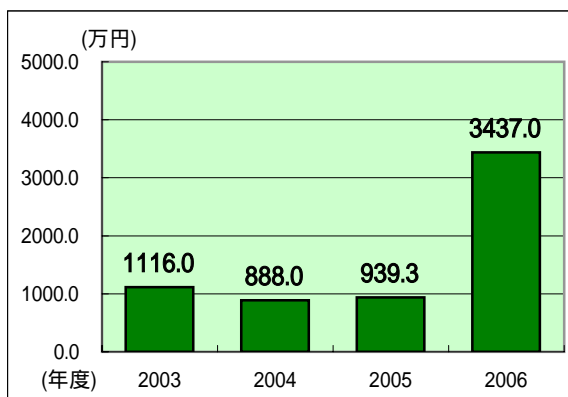
- 1) リサイクル事業部門事務所の移転集約に伴い、老朽化した空調機を高効率空調機(ガス炊 EHP)に更新し、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図った。<実施:平成18年6月>  
 <省エネ効果> 原油換算使用量削減 = 4.1kl/年 CO<sub>2</sub>排出量削減 = 20.9 t-CO<sub>2</sub>/年
- 2) 電装事務所会議室用30RTガス空調機を余裕のある既設事務所用100RTガス空調機に集約し、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図った。<実施:平成18年8月>  
 <省エネ効果> 原油換算使用量削減 = 18.4kl/年 CO<sub>2</sub>排出量削減 = 36.5 t-CO<sub>2</sub>/年

# 久宝寺事業センター

## 6 環境会計

### 環境投資

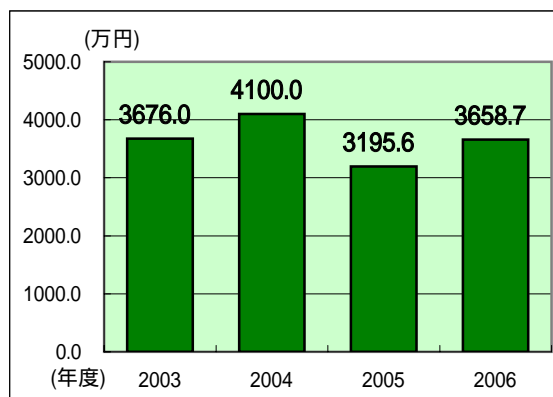
2006年度:3437.0万円



### 環境保全費用

2006年度:3658.7万円

人件費は含んでいません。



### 環境保全効果

効果の内容	効果	2005年度	2006年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	34555.50	33515.29	1040.21	3.0%
	水使用量(m <sup>3</sup> )	12943.00	13158.00	215.00	1.7%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO <sub>2</sub> 排出量(t)	1195.73	1125.65	70.08	5.9%
	SO <sub>x</sub> 排出量(t)				
	NO <sub>x</sub> 排出量(t)				
	ばいじん排出量(t)				
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	4.77	3.81	0.96	20.1%
	廃棄物排出量(t)	324.36	367.54	43.18	13.3%
	廃棄物埋立量(t)	0.00	0.00		

### 経済効果

2006年度:774万円

分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	省エネ型空調機への更新(ガス吸収式 EHP)	677 万円
	ガス吸収式空調機の統合による省エネ etc	
物流環境保全対策	製品梱包資材の軽量化、輸送距離削減 etc	97 万円
合計		774 万円

# 久宝寺事業センター

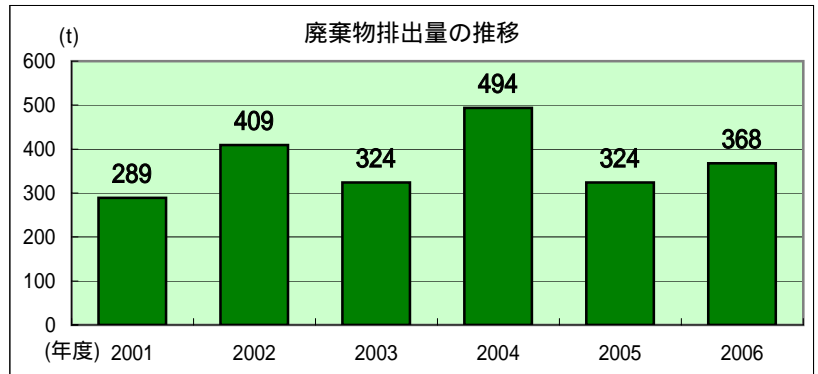
## 7 環境パフォーマンス

### 循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

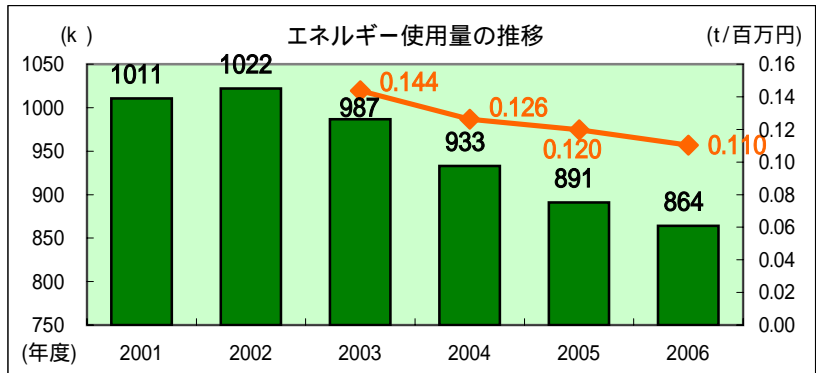
### ゼロ・エミッション化

2000年度(111期)下期に  
達成しました。

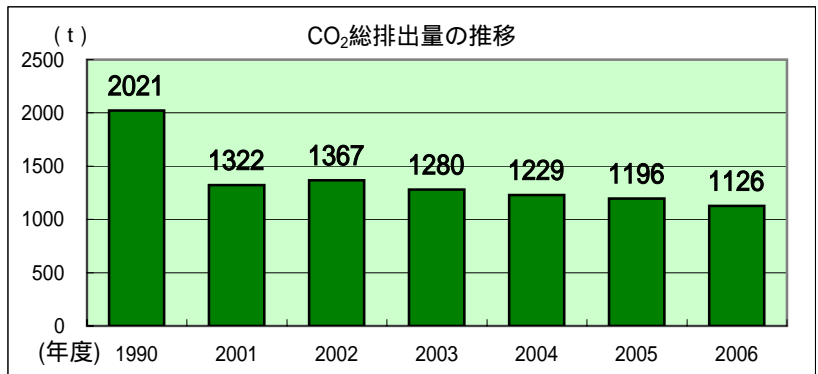


### 地球温暖化の防止

省エネルギー、  
温室効果ガスの削減

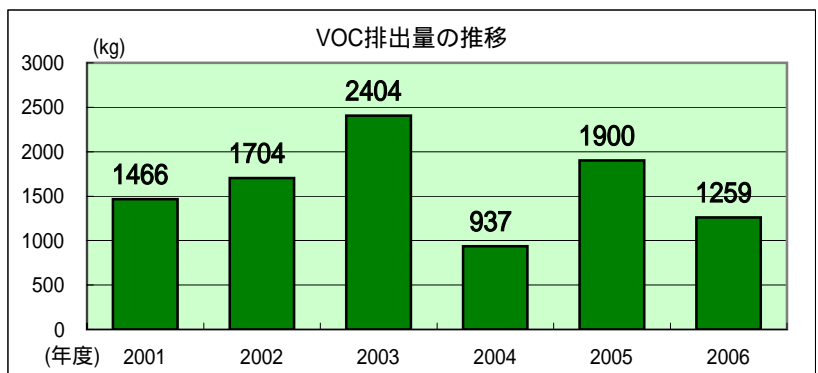


CO<sub>2</sub>総排出量の削減



### 有害化学物質の削減

VOC大気排出量の削減



# 久宝寺事業センター

## PRTR法対象物質の排出量・移動量(2006年度)

(単位:kg)

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
63	キシレン	1110					789
227	トルエン	149					1766

## 8 環境コミュニケーション

### 地域美化活動

名称 地域清掃  
日付 2006年 5月25日  
参加人数 20名

日付 2006年 7月27日  
参加人数 20名

日付 2006年 9月26日  
参加人数 20名

日付 2006年11月28日  
参加人数 20名

日付 2007年 1月26日  
参加人数 20名

日付 2007年 3月23日  
参加人数 20名



地域清掃





## 久宝寺事業センター

## 9 サイトデータ (2006年度実績)

## ▶ INPUT

項目	単位	使用量	熱量換算GJ	
エネルギー	電気	万kWh	252.5	24807.7
	石炭コークス	t		
	都市ガス	千m <sup>3</sup>	157.8	7260.2
	灯油	k	12.0	440.4
	軽油	k	0.2	7.6
	重油	k		
	LPG	t	19.2	964.7
	ガソリン	k	1.0	34.6
	合計			33515.3
水使用量		万m <sup>3</sup>	1.3	

## ▶ OUTPUT

CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	1125.65
---------------------	-------------------	---------

放流先	項目	単位	1排水口		
			規制値	測定値	
排水	公共用水域	pH	-		
		BOD	mg/		
		COD	mg/		
		窒素	mg/		
		りん	mg/		
		六価クロム	mg/		
		鉛	mg/		
		COD総量規制値	kg/日		
		窒素総量規制値	kg/日		
		りん総量規制値	kg/日		
	下水道	pH	-	5.7~8.7	7.0
BOD		mg/	300	2.0	
COD		mg/			
SS		mg/	300	3.0	
廃棄物排出量		t	367.5		
再資源化率		%	98.4		